

第2回中区まちづくり懇談会 会議要旨

- 1 開催日時 令和6年10月31日（木）15時～17時
- 2 開催場所 広島市役所本庁舎14階 第2会議室
- 3 出席者
 - (1) 委員（15人中12人出席）
江郷委員、大井委員、近藤委員、坂本委員、高本委員、高山委員、田中委員、中野委員、三浦委員、山口委員、若狭委員、和田委員
 - (2) 委員外
諏訪氏（広島電鉄株式会社 地域共創本部 地域共創事業部 地域交流事業課長）
 - (3) 事務局（市）
区長、副区長（兼市民部長）、建設部長、建築担当部長、厚生部長、厚生部医務監、地域起こし推進課長
- 4 議題
次期「中区のまちづくりアクションプラン」の策定案について
- 5 公開・非公開の別 公開
- 6 傍聴者 0名
- 7 会議資料
 - 議事資料1 次期「中区のまちづくりアクションプラン」の「具体的な取組」（案）について
 - 議事資料2 中区のまちづくりアクションプラン（案）
 - 参考資料1 第1回中区まちづくり懇談会での意見への対応案
 - 参考資料2 現行から次期アクションプラン（基本方針ごとの内容部分）への体裁変更について

8 発言要旨

〔開会〕

〔議事 次期「中区のまちづくりアクションプラン」の策定案について〕

＜大井座長＞

「次期「中区のまちづくりアクションプラン」の策定案について」、事務局から説明をお願いします。

＜事務局＞（地域起こし推進課長）

（議事資料1及び議事資料2により説明）

＜大井座長＞

ただいまの説明について、何か御質問、御意見等はあるか。

＜若狭委員＞

今の全国的・世界的な流れとして、中区のような都心部に関しては「ウォークアブルなまちにしましょう」ということが合い言葉のように言われている。日本でも各都心部においては、一般交通を

遮断して公共交通だけにする、歩道を広げるといった流れが一般的で、自身が携わるカミハチキテルでも相生通りをウォーカブルな通りとすることを目指す活動をしているが、これは相生通りだけではなく、広島都心部全体に言えることではないかと思う。その点が全く言及されていないが、広島は観光客も多く、たくさんの来訪者が訪れるので、今からの5年間のみならず、10年先20年先を見据えて、ウォーカブルなまちを目指すべきではないかと思う。もちろん本庁で取り組む事業ではあるが、緑があり、休める場所があって、歩きやすい都市、というものを中区も本庁と一緒にやって取り組んでいただきたい。また、その中の一つとして、今回、平和大通りのことが一切書かれていない。平和大通りは観光政策部がPFI方式で整備しようとしているが、現在、応募者が1件もないようである。自身も会議に出ているが、平和大通り整備の議論に中区も入り、立て直しに向けて取り組んでもらいたい。

<大井座長>

ウォーカブルなまちづくりという概念を入れたらどうか。その中で平和大通りの扱いを考えてほしいという御意見だった。事務局から回答をお願いします。

<事務局>（地域起こし推進課長）

中区がやるイベントと本庁がやるイベントの色分けはあるが、訪れる人から見れば中区も本庁も関係ない部分はあると思う。平和大通りの取組も含め、観光政策部とは情報交換を密にしながら、中区として何ができるか、何をしてもらいたいのか、という声を上げていきたい。

<若狭委員>

住民主体でやるべきところがたくさんあると思うので、その意見を聞かないといけない。観光の視点だけでは難しい面があると思うので、その点を中区に協力してもらいたい。

<高山委員>

多くの外国人が広島へ来られるようになったが、最近では観光地への訪問だけでなく、伝統工芸の漆塗り体験や金箔打ち体験であるとか、仏だん通りの店内の工房見学など、外国人観光客向けのツアーが増えてきている。1日で全部回りたいという方も多く、仏だん通りは平和公園から近く、交通の便もよいため1時間ほどのツアーが開催できる。そういった点が重要視されているが、中区の歓楽街で外国人も楽しめる飲食店があるのか気になる。この度、日本原水爆被害者団体協議会がノーベル平和賞を受賞したことで、海外から広島への観光客が更に増えるのではないかと予想される中、中区の歓楽街は人の集積度が高いので、それをうまく活用できる方法がないかと思う。

<大井座長>

外国人観光客向けに夜のまちの魅力向上、いろいろな観光資源の開発を進めるべきだという御意見だと承った。

<事務局>（地域起こし推進課長）

御意見は経済観光局に情報提供した上で、区としても本庁と連携して取り組むことができるものは実施していきたい。

<田中委員>

音楽もできるような飲食店にも外国人が多く来ており、日本に数か月ほど滞在する方も何組も来ていた。そういった外国人をおもてなしするというのを、それぞれの町でPRしてもよいのではないかと思う。

<諏訪氏>

アクションプランの1ページ目「(4) 計画の推進に当たって」に赤字で書かれているが、いろいろな方が連携していくことが非常に大事だと感じる。先ほど平和大通りの話もあったが、この5年間で大きく変わったのは市民球場跡地のようなPark-PFIを使った官民連携の施策が増えてきており、これからの主流になると思っている。その中で、今回、地域と区役所の役割を分けているが、中区の取組の実施に当たっても、地域や企業と一緒に何ができるのかを考え、その機会がもっと増えていくと一体的な取組になると思うため、その点が「(4) 計画の推進に当たって」の中にも見えてくるとよい。2点目に、今回、いろいろな年齢に即した記載がある中で、大学生の記載がないことが気になっている。5年前との大きな違いとして、広島大学（法学部）が帰ってきたことや、叡啓大学などの新しい大学が開学したことであり、今後、大学生などのまちなかでの居場所や、交流が促進できる場などの環境づくりが進めば、もっと活気のあるまちになるのではないかと思う。最後に、若狭委員からも意見があった「ウォークブルなまち」について、案内サインや座ることができる場所などがあると回遊したくなるのではないかと感じた。本庁と役割分担がある点だとは思いますが、御検討いただければと思う。

<大井座長>

連携が非常に大切であり、官民が一緒にやっていく姿勢をもっと強調したらどうかという点。大学、若者の活用という視点が非常に大事ではないかという点。ウォークブルなまちづくりのためには案内サインやベンチなどの整備が大事ではないかという点、という3点の指摘だった。

<事務局>（地域起こし推進課長）

1点目の連携については、例えば、今年度、8月1日のヒロパ開業に伴い、ヒロパ、ゲートパーク、シャレオ地下街に人がうまく流れていくよう、スタンプラリーを開催した。今年度末には広島城三の丸も整備されるが、我々もイベントを企画する際には、周辺施設でのイベントとの連携など、一石二鳥、一石三鳥も意識しながら、回遊性の向上につなげていきたいと思っている。2点目の大学生については、例えば、8ページの「まちなかの魅力を向上させるイベントの推進」では、中区、広電、シャレオで協力し、ワークショップで検討を重ねながらシャレオ地下街でのイベントを企画・実施しているが、今年度はそれに加えて広島大学と叡啓大学に声掛けし、それぞれの学生がワークショップに参加して一緒にイベントを企画・実施した。これからもイベントの開催やいろいろなアイデア出しなど、大学生の力を借りていきたいと思っている。3点目の案内サインについては、全市的な取組となるが、回遊性の向上に向け、本庁の関係部署に情報提供し、協力しながら区としてできることがあれば取り組んでいきたい。

<三浦委員>

吉島東学区のLMOの会長として、アクションプランの基本方針3、4、5が吉島東の住民に対して取り組まないといけない項目だと思うが、昨年LMOを立ち上げたばかりで、LMO本来の趣旨に即した活動はできていないと感じている。今回のまちづくりアクションプランは非常に多岐にわたるので、今後の一つの指針としながら取り組んでいきたいと思う。ただ現実には、吉島東でもマンションが多く建ったことで若い世帯が増えたものの、そういった世帯は基本的に町内会に入らない。また、従来から地域づくりをやってきた方が高齢化しているが、次の世代が入ってこない。さらには、子ども会やPTAも加入率が下がっており、若い世代が地域づくりに参加しないという状況にある。区から町内会の加入促進チラシをいただいているが、世の中の流れとして地域コミュニティへの積極的な参加が重要となっていることを、もっと違う形でPRしてほしい。先日、吉島東学区社協で大阪市北区まで研修に行ってきたが、そこではひろしまLMOのような取組をすごく活

発に実施しており、大学生ボランティア 200 人ほどが社協に登録して年間で 100 人ほどが活動に参加してくれているということを知った。先ほど話が出たように大学生を積極的に取り込んでいく努力も必要ではないかと思うため、町内会、老人会、子ども会などに入ることは当たり前になっていくような世の中の流れをPRしてほしい。

<大井座長>

LMOの活動の経験を踏まえて、地域コミュニティ活動の大切さを中区としてもしっかりPRしてほしいという要望だと承った。

<事務局>（地域起こし推進課長）

中区としてもいろいろな学区へLMO設立に向けた働き掛けをしている中で、町内会加入世帯の減少や担い手不足ほどの地域でも共通の課題と聞いている。その中で、LMOの活動として、そうした課題解決に向けて取り組んでいる地域があるため、我々としては皆様の課題をしっかりと聞き取り、その課題に対応するための好事例を水平展開していきたいと考えている。例えば、若い世代の担い手不足に対しては、行事などに参加してくれた若い世代に積極的に声掛けしてLINEのグループをつくり、祭りなどの行事の際には、手伝いだけでも協力してもらえよう呼び掛けて、若い人材を集めている地域がある。また、町内会未加入者に対しては、町内会という組織や役割をまずは住民に知ってもらい、そこから町内会の価値や加入意識を高めていこうとしている地域がある。大学生については、広島市立大学ではボランティア登録制度をつくり、100人ほどが登録しているので、そういった情報も積極的に提供できればと思う。

<坂本委員>

この度、「地域共生社会の実現」の取組の一つとして「相談支援包括化推進員の配置」を記載されているが、例えば、「認知症の人と家族を地域で支える体制の整備」では、全区で認知症地域支援推進員を配置するなど、いろいろな活動に多様な専門職が関わっている中で、あえてこれを載せた意図はなにか。

<事務局>（厚生部長）

重層的支援体制整備事業を今年度から進めていく中で、相談支援包括化推進員を全区展開していくこととしており、新規の取組として記載したものである。

<若狭委員>

10年ほど前に商店街を中心とした広島中心部の防災マップを中区地域起こし推進課と一緒に作成したが、10年経過したので、そろそろ更新する必要があると感じている。南海トラフ地震の発生も危惧されている中で、地域の防災意識も高くなっていると思うので、前回作成したマップの更新を検討していただきたい。

<近藤委員>

地域の自主防災組織が主体となって作成する「わがまち防災マップ」は、中区では全地区で完成しているため、何かあれば自主防災会へ連絡していただければと思う。また現在、全国各地で闇バイトによる強盗事件が発生している。警察が対応する範囲だと思うが、区役所として、そういった事件への対策に関する考えはあるか。

<事務局>（地域起こし推進課長）

毎年開催している「減らそう犯罪区民大会」において、今年度も防犯に関する普及啓発などを行

う予定である。また、防災マップについては、完成から年数が経過したところもあるため、その対応についてはまた検討していきたい。

<大井座長>

いろいろな御意見をいただいたが、終了時間が近づいてきたので、以上とする。なお、本日いただいた意見等への対応については座長である私に一任していただき、次回の第3回懇談会に向けて事務局と調整する。それでは、本日の議事は以上のため、進行を事務局にお返しする。

<事務局>

第3回懇談会については、1月下旬の開催を予定している。日程については、座長と相談の上、改めて日程調整する。次回の懇談会では、本日の御意見などを踏まえ、次期アクションプランの最終案を作成し、皆様に御説明した上で承認いただく予定としている。なお、最終案は、区民の皆様にも新たなアクションプランと感じてもらえるよう、写真を使用するなど、全体的にデザインも変更してお示ししたいと考えている。また、本日の懇談会は、会議要旨を作成し、市のホームページで公開する。それでは、本日は、以上で閉会する。